

非営利法人ニュース

2018年
12月号
Vol. 70



発行 公益総研 非営利法人総合研究所
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814
編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

★★★ お勧めセミナー情報 ★★★

「NPO資金調達セミナー 補助金・助成金編」

*NPOでも申請できる！公的補助金・助成金とは・申請方法やコツなど伝授

- 講師 福島 達也
(田園調布学園大学講師・(特非)国際ボランティア事業団 理事長)
- 日時 2019年1月25日(金) 午後5:30~7:30(受付5:15~)
- 会場 東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル1階会議室
(新橋駅烏森口より徒歩8分・御成門駅より徒歩5分)
- 定員 先着8名まで 徹底指導(最少催行人数3名)

★★ 返済のない奨学金のお知らせ ★★

「2019年度JL奨学生」

『中学3年生対象 高校奨学金募集中!』

- 募集期間:2019年1月末日まで
- 採用人数:2019年度の奨学生は若干名を採用とする。
- 給付等:高校3年間(36か月)、月額2万円を支給します。

「2019年度シャンティ奨学基金」

『兵庫県・大阪府の大学文系女子学生向け奨学金!』

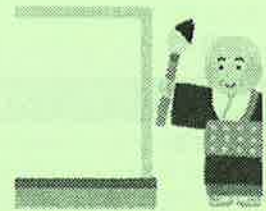
- 募集期間:2018年12月20日まで
- 採用人数:2019年度3年生または4年生の奨学生2名を採用とする。
- 給付等:単年度、年額45万円を支給します。

★★ 助成金のお知らせ ★★

こどもオポチュニティーズクラブ基金

- 助成目的:こどもの心と体の健やかな成長を願い、こども社会に格差ない「平等の機会」を支援する。
- 助成対象:東京都・神奈川県・静岡県内において食事支援活動または学習支援活動を行う団体・個人で以下の要件を満たすもの
 1. こどもに対して無料の食事支援活動または学習支援活動を行っているもの
 2. 1年以上かつ毎月1回以上の食事支援または学習支援を約束できるもの
 3. 営利目的でない事業であること
- 助成額:月2回以上実施団体は1件20万円以内(月2回未満は10万円以内)(助成件数15件程度)
- 応募締切:2018年12月20日

※詳しくは、財団ホームページ(<https://kosuikyo.com/>)をご覧ください、申込書等はHPよりダウンロードし、必要事項を記入して、必要書類とともに郵送してください。



◎情報満載!今月のもくじ◎

セミナー情報	1
奨学金&助成金情報	1
非営利法人関連情報	2,3
CEOコラム	4
編集後記	4

☆セミナー申込方法☆

【1】NPO資金調達セミナー 補助金・助成金編

→特定非営利活動法人
国際ボランティア事業団
TEL 03-5405-1813
FAX 03-5405-1814
メール npoinfo@iva.jp

■必要事項

- ①参加日
- ②参加者氏名
- ③団体名
- ④案内送付先郵便番号、住所
- ⑤電話
- ⑥ファックス
- ⑦メールアドレス

☆奨学金&助成金応募先等☆

【2】奨学金

【3】助成金

→公益財団法人公益推進協会

応募用紙等郵送先

〒105-0004
東京都港区新橋6-7-9
新橋アイランドビル2階
(公財)公益推進協会
・JL奨学生
・シャンティ奨学基金
・こどもオポチュニティーズクラブ基金
担当 高野宛

お問い合わせ

03-5425-4201
(問合せ対応時間:平日10時~18時)

「障害者雇用の闇と光（下）」



公益総研株式会社 首席研究員兼CEO
公益財団法人公益推進協会 代表理事
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也

前号では障害者雇用の闇の部分について書いたが、実際現場ではミスマッチが続いているのだ。行政側は障害者雇用に関して、自分たちには甘いくせに、努力をしていないと判断した企業に対しては、厳しい姿勢を貫き、最終的にはブラック企業として企業名を公表すると伝え、プレッシャーをかけている。そこには企業の尻をたたけば何とかするだろうと思っている姿勢がミエミエだ！だが、実際に企業側からは「障害者雇用はそんな甘いもんじゃない」という声があるのも事実だ。まず、企業は業務にとって必要な人を採用するという大前提がある。しかし、マッチングの難しさを考えれば行政が思っているほど人材はいないのだ。達成目標が2.2%とか2.3%だとか言っても、障害者手帳が基本的な判断基準なので、手帳を持っている人の数は限られているわけで、雇いたくても雇える人が存在しないというのが現実なのだ。このままさらに雇用率だけが上がっていても、働ける障害者の奪い合いが起こり、やがて雇用の限界が来ると思う。なぜか？

そう、医療の発達などにより、身体障害者の数は実は減っているのだ。さらに、現在では初期の頃に雇用した障害者の人たちが定年退職を迎えているのだ。それを見越して国は、数を補うために4月からは精神障害者雇用に踏み切ったのだが、精神障害者をどこで探すのか、どんな人がいるのか、働き続けてくれるのか、行政からのアドバイスはほとんどなく、すべて自己責任となっているのだ。そんな中、民間企業側は工夫して障害者のための仕事を見つけ、その中で喜んで働いてもらえるような仕組みを作ろうと努力している。例えばこんな企業も出始めている。

障害者を雇用して自社の事業所で働かせるにはいろいろと難しい面もある。障害者ができる仕事がないという企業もあるだろうが、あっても、障害者用のトイレや手すりなどの施設が整備されていない場合もある。そこで、ある企業は、そうした困っている企業からの委託を受けて、障害者特に知的障害者や精神障害者を困っている企業内ではなく自分たちの事業所で受け入れ、代わりに障害者でもできる仕事を与えてあげるというウルトラCを考えたのだ。これはすごい！でも、知的障害者がやりやすい仕事ってどんなものがあるのか？

例えば、農業だ！農作業は知的障害者などにも比較的合うといわれている。土や水を使って遊んでいる感覚で働けるというメリットもあるのだ。そこで、企業から受け入れた障害者にシステム化された農作業を教え、農産物を作る。障害者は、企業の職員なのだから、一般職員と同じような給料をもらい、福利厚生も一般企業だから手厚い。作業を教える健常者も企業と一緒に雇ってくれるので、農業を教える企業にとっては職員の給料を払う必要はない。障害者の親御さんも、自分の子どもが一流企業に就職できるので大喜び、一流企業も障害者雇用率をクリアできるので大喜び。受け入れる企業も企業から研修費などを貰えるので大喜び・・・つまり、みんなハッピーなシステムなのである！このように、なかなか難しいと言われている障害者雇用の世界も、優れた発想があれば解決できる道が開かれているのだ。今回の水増し事件を受け、法定雇用率の再度の見直しも必要ではとの声も聞こえる中、皆で知恵を絞り、少子化で外国人を受け入れるしかないと言われている働き手を、障害者の特性を生かして活用する道を模索し開発すべきだと思う。2020年には東京パラリンピックも開催される。そんな中、日本が本当に多様性を受け入れる社会になれるかどうか、時間はもう残されていない。急げ！！

.....CEOコラムバックナンバーはこちらから→ http://www.iva.jp/nposouken/ceo_column.html

編集後記

先日、茨城県で開催されたあるイベントに行ってきました。私の自宅からでは片道3時間の道のりです。毎年開催されているイベントで以前から行ってみたいと思っていたのですが、今回は日程が合ったので行くことができたのですが、来場者数が約13万人も来ていたらしく会場が人で埋め尽くされていました。どの施設を利用するにも数十分～1時間待ちの状態です。並ぶのが苦手の私にとってはちょっときつかったのですが、来年もまた行きたいと思う程度には楽しめました。ただ、交通機関の金額はもう少し安くならないですかね？茨城県へ行くだけで往復1万円は高すぎる！！

(ごんべい)